

は し が き

本研究報告書は、日本大学口腔科学研究所が平成13年度に文部省(現文部科学省)から私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」の研究拠点として選定を受け、[歯科先端材料・先進技法による口腔機能の再構築]と題した研究活動を5年間にわたって行った成果を報告するものです。

本書の構成は、次のとおりとなっています。

第1章研究成果の概要は目的・意義の達成度、および優れた成果・評価体制さらに研究期間終了後の展望・副次的効果が班・グループ別に展望できます。

第2章主な研究施設等は研究に使用した研究施設・装置・設備と使用状況を示しました。

第3章研究の成果は発表論文、学会発表ならびに特許申請などの成果を班ごとに一覧表で示し、研究成果物は一覧表の順に別刷などを示しました。

第4章研究経過報告会では経過報告会、中間報告会、市民公開講座、国際シンポジウム、学術フロンティア推進事業シンポジウムなど各事業の講演要旨などを掲載しました。

口腔機能の再構築は歯科医療の最大目標であり、全身の健康維持促進にも多大な貢献を果たします。この目標の達成には基礎と臨床の多領域の先端医学研究が必須であり、基礎医学研究は最終的に歯科医療に生かされてはじめて社会に貢献できるものとの思想から、基礎研究と臨床応用の両者の連携を重視して推進して参りました。その結果臨床応用の糸口が開け、次世代の臨床に寄与できる方向を導けることができたことは、極めて有意義であったと深く感謝申し上げます。今後臨床応用が発展し、社会に還元することができれば望外の慶びであります。

今回このような機会を与えて下さった文部科学省を始め、共同研究機関など関連するすべての方々に、厚くお礼申し上げます。

平成18年3月 研究代表者 根本 君也